

誕 生 日

1. 教育を考える一言

「ハッピーバースデー！あすか！」

2. 背景

「ハッピーバースデー！あすか！」という言葉は、『ハッピーバースデー』という本の最後の場面で、父親から娘に向けられての一言です。この一言をもらうまでに主人公であるあすかは、様々な苦難を乗り越えていきます。初めは、母親からの「ああ、あすかなんて、本当に生まなきゃよかったなあ」という言葉から、声が出なくなり、兄からの言葉の暴力、母からの虐待、父親から理解されなかったり、様々な苦難にさらされます。しかし、あすかには味方もいます。祖父母、真実を知った兄、自らの勇気により仲良くなった友達、理解のある教師、そしてあすかは強く生きていく力を身につけていきます。「ハッピーバースデー！あすか！」という言葉は、様々な苦難を乗り越え、自分が変わることで、周りにも影響を与え、そしてそんな周りからの最大の祝福の言葉となっています。

3. 考察

人が当たり前のように、一年に一回受ける祝福の言葉である「ハッピーバースデー！〇〇！」という言葉は、とても深い意味を持っている言葉だと考えます。あなたが生まれてきて、そこに存在していることにおめでとう、という意味であるように思います。これは、あなたがそこにただ存在している、それだけで素晴らしいことだという賛辞です。普段、「ハッピーバースデー！」という言葉を使うときに、人はそんなことを考えていませんが、よくよく考えると上に述べたような意味を持っていることがわかると思います。「あなたがあなたであること、それだけでいいんだよ」という言葉を受け取る子どもは、自己肯定感が高くなります。教育を考える上で、自己肯定感が高いか低いかということは、とても重要なこととなります。あすかも初めは、様々な苦難により低かったといえます。しかし、苦難を乗り越え、手に入れた自己肯定感または自尊感情により、様々なことをよりよく学んでいきます。現実が本に書かれているようにうまくいくかどうかはわかりませんが、少なくとも大人は子どもの自己肯定感のなくなるような教育をすべきではないと考えます。自己肯定感の高い子は、様々なことに対してプラスに考えます。しかし、低い子は、自分なんかと考えると、時には命を絶ってしまうことさえもあります。そんなことが起きないように全ての子どもが「ハッピーバースデー」という言葉を心の底から素直に受け入れられるような、そんな世界を作るために、子どもに関わる全ての人は考えて教育を行うべきであると考えます。そうすることで、この本の最後部に見られる、あすかの家族、友達、学校の先生のような関係になれると思います。

参考文献

青木和雄・吉富多美『ハッピーバースデー』金の星社、2005年